

ウスリーおよび朝鮮の蝶若干種

村 山 修 一

(569) 大阪市高槻市城南町4丁目23-21

Some butterflies from Ussuri, U. S. S. R., and Korea,
with description of two new subspecies.

SYU-ITI MURAYAMA

はじめに、多数の貴重な標本を提供された Vladivostok の故 A. I. Kurentzov 教授や V. A. Kirpichnikova 女史はじめ極東科学アカデミーの方々に対し厚く御礼申上げる。

***Leuhdorfia puziloi puziloi* Ersch. (fig. 9)**

ヒメギフチョウ (原亜種)

Examined specimens: 2♂♂ 22-IV 1961, Vladivostok, Length of forewing 25mm.

Ussuri 産の本種は、前翅表面第1室中央より第2, 3室基部にかけての黒帯が亜種 *coreana* (fig. 10) に比して細く後翅前縁から中室外半に至る黒帯は太く、第1室の黒帯も顕著である。北部朝鮮のものも同様原亜種に属するものと思われる。

***Neptis yunnana tshetverikovi* Kurentzov (fig. 2 & 4)**

ノムラキイロミスジ

Examined specimens: 1♂ 27-VI 1973, Chulusiski, Primorski. 28mm.

私が“蝶と蛾” Vol. XIV pt. 2, 1963, p. 45, fig. 20 & 22 で本種として示したものはすべて *thisbe* 種と判明したのでここに訂正する。ただしこの *thisbe* は翅表の黄色斑紋は淡黄色ないし白色に変わっており、これが中部朝鮮の低山地では一般的な傾向のようで、別亜種としてみられよう。従って *thisbe* の白帯型に用いられてきた *deliquata* Stich. の名をさしあたりその亜種名に使用し、正確な亜種名は将来の検討にまつことにしたい。Eliot 氏 (1969) が *yunnana* の亜種とした点についてもなお研究の余地がのこされている。白水氏 (1952) は朝鮮産の本種を中心に詳しく解説されたが、図示されなかったのでここに手許の標本の写真を掲げる。なお、本種と同地で採集された Ussuri の *thisbe* もあわせ図示したが、Kurentzov 氏は Ussuri 産が小形であるのを特徴として、*ussuriensis* (fig. 1 & 3) なる亜種名をつけた。私の手許にある朝鮮産にくらべても小さく、前翅長1♂は29mm, 1♀は30mmである。

***Neptis themis kumgangsana* subsp. nov. (fig. 5 & 6)**

ヒメキイロミスジ (朝鮮亜種)

Holotype 1♂, Paratype 1♂ とともに 28-VI 1970, Mt. Seol-Ak. Kang-Won-Do. Middle Korea. Length of forewing: 29-30 mm.

朝鮮産 *themis* は岡本半次郎氏が1924年、金剛山 (Kumgangsan) で最初に採集されたもので、1935年には杉谷岩彦氏 (Zephyrus Vol. 6, pt. 1 & 2, p. 5-7, Tab. 1, fig. 4) が原色図を示して詳しく解説せられた。この両氏とも指摘されたように、朝鮮中部産のものは翅の斑紋が白色か淡黄色を呈し (*thisbe* の場合に似ている) しかもその発達は原亜種や *thisbe* より弱い。杉谷氏はこれらの特色によってこれを *themis theodora* Oberthür と同定

され、これは中部シナの湖北省沙市付近が原産地であるとのべられた。(その際引用された Oberthür の原記載文献は間違っている)。同氏がどんな理由で *theodora* とし、かつそれが沙市付近を原産地とするとされたのか、いまだずねるに由ないが、1969年になって J.N. Eliot 氏は、*themis* を分かって *themis* (fig. 7 & 8) (中部および西部シナ), *ilos* (アムール), *muri* (北シナ—張家口), *theodora* (北西雲南—メコン河上流) の4亜種とされ、*muri* はその際新しく記載せられた。この記載によると、*muri* は中部朝鮮産と同様、斑紋は白いが、亜種 *ilos* (斑紋は黄色でその発達の程度は中部朝鮮産に近い) より斑紋はよく発達し、ことに前翅第5室の斑紋は第6室のそれと接続するという。これによって *muri* は総体に中部朝鮮産より斑紋の大きいことが察せられる。すなわち、中部朝鮮産は4亜種に比し、もっとも表面斑紋の発達が弱く、*ilos* にくらべても前翅第2, 3室紋や5, 6室紋はその輪郭がボヤけており、paratype の1頭では第2, 3, 5の3紋はそのあらわれ方が微弱である。こうした点でここに新亜種名を付した。なお、杉谷氏は金剛山で採集したものの中に斑紋の黄色を呈するものが1頭あり、これは *themis* の原亜種だとのべられているが、同氏の *themis* といわれるものの中には *tshetverikovi* が混同されている疑いが強い。

***Favonius schischkini* Kurentzov stat. nov. (fig. 11~16)**

ヒメミドリシジミ (新称)

Examined specimens: 4♂♂ 20-VII 1970, Station Kaugaur, 1♂ 30-VI 1975, Tigroboi, 1♀ 10-VII 1970, Vladivostok, 1♀ 8-VIII 1974, Vladivostok. Length of forewing: ♂ 17-18mm. ♀ 15-17mm.

1970年 Kurentzov 氏が *orientalis* の亜種として記載した *schischkini* は下記の特徴により、*orientalis* とは別の独立種と認むべきものである。(Ussuri 産の真の *orientalis* は次の項に記載したとおりである。)

サイズは小形、雄翅表の緑色は黄味をおび、尾状突起は長い。裏面は雌雄とも地色はやや灰褐色を呈し、白帯のW字形は細くWの山形は高い。雄交尾器において brachium は先端強く曲がるが、屈曲部の膨大は *orientalis* よりやや弱い。Valve の先端部内側は *orientalis* のようにえぐられることなく、末端に向かって漸次細くなり、内側の鋸歯状の部分は *orientalis* より長い。

本種が日本本土にも分布するかどうかは今後の興味ある課題である。

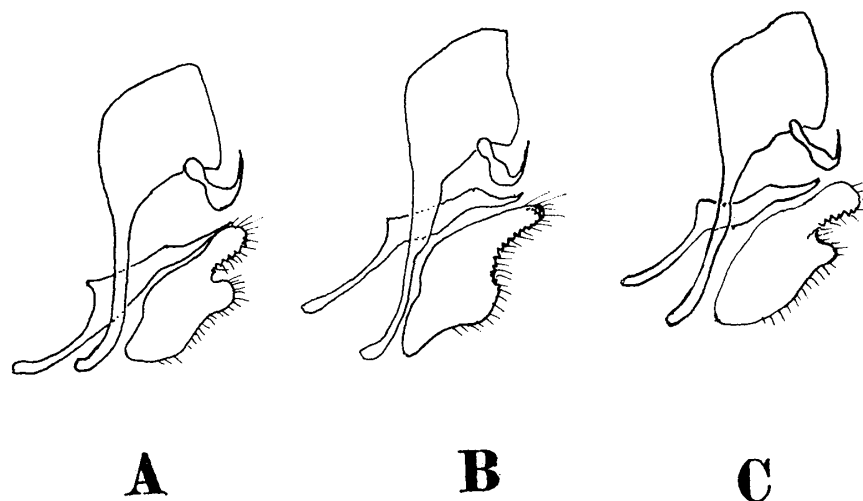


Fig. A. *Favonius orientalis orientalis* Murray

Fig. B. *F. schischkini* Kurentzov

Fig. C. *F. orientalis primoriensis*, ssp. n.

***Favonius orientalis primoriensis* subsp. nov.** (fig. 17~20)

オオミドリシジミ (ウスリー亜種)

Holotype 1♂ 16-VII 1976, Vladivostok. Paratype 1♀ 同じ. Length of forewing: とともに 20mm.

Ussuri に産する *orientalis* は原亜種に比し、雄の翅表緑色は濃青色味が強く、一見ジョウザンミドリシジミ雄の感じで、前翅頂は雌雄とも尖っている。 *F. schischkini* に比してかなり大きい。雄交尾器は原亜種にくらべて brachium 屈曲部の膨大はやや弱く、valve 先端部内側のえぐれもそれほど深くない。

***Celastrina filipjevi* Riley** (fig. 21~23)

シュオツルリシジミ (原亜種)

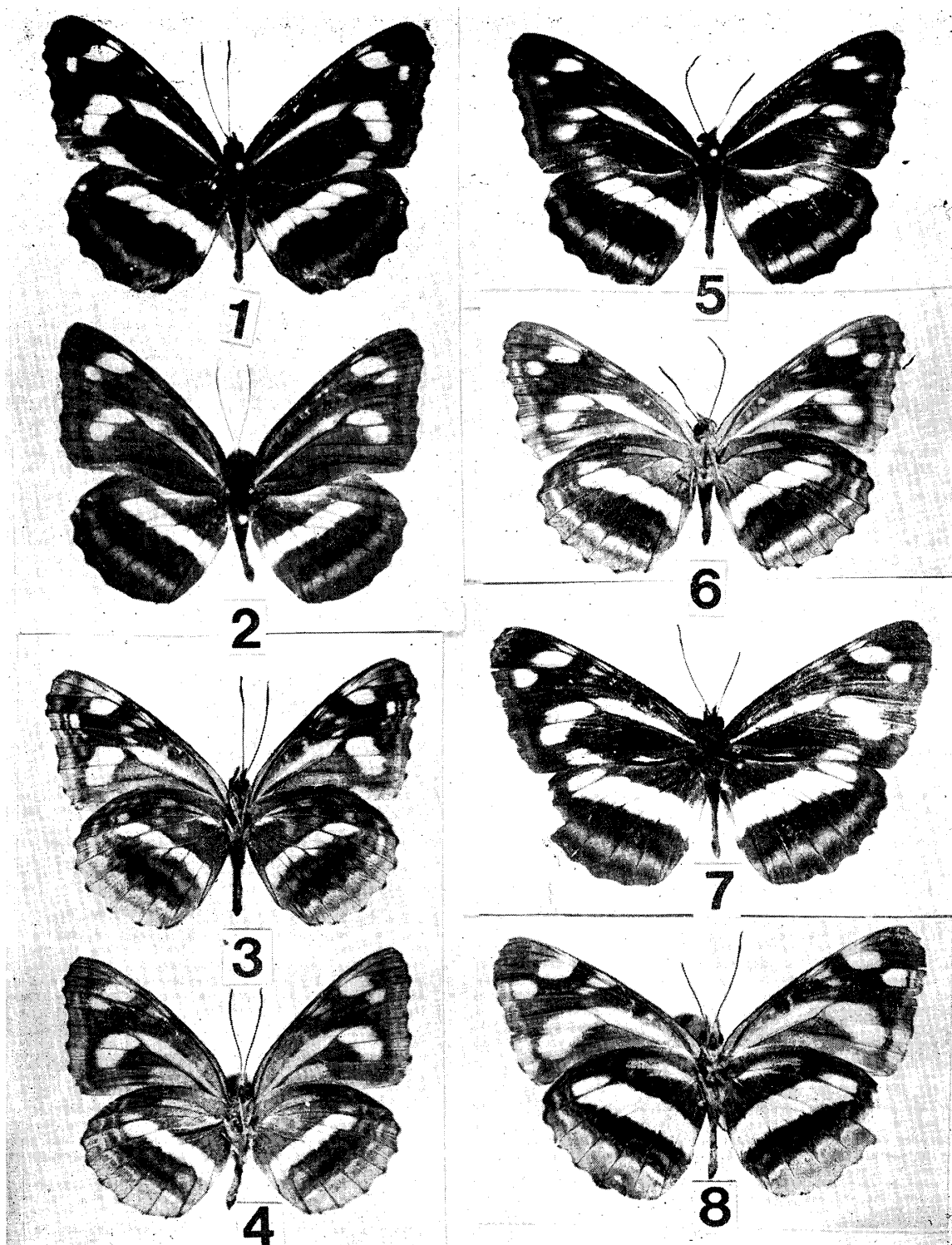
Examined specimens: 3♂♂ 27-VII 1975, 2♂♂1♀ 25-VIII 1974 Tigroboi.

Length of forewing: ♂ 12-14mm. ♀ 13mm.

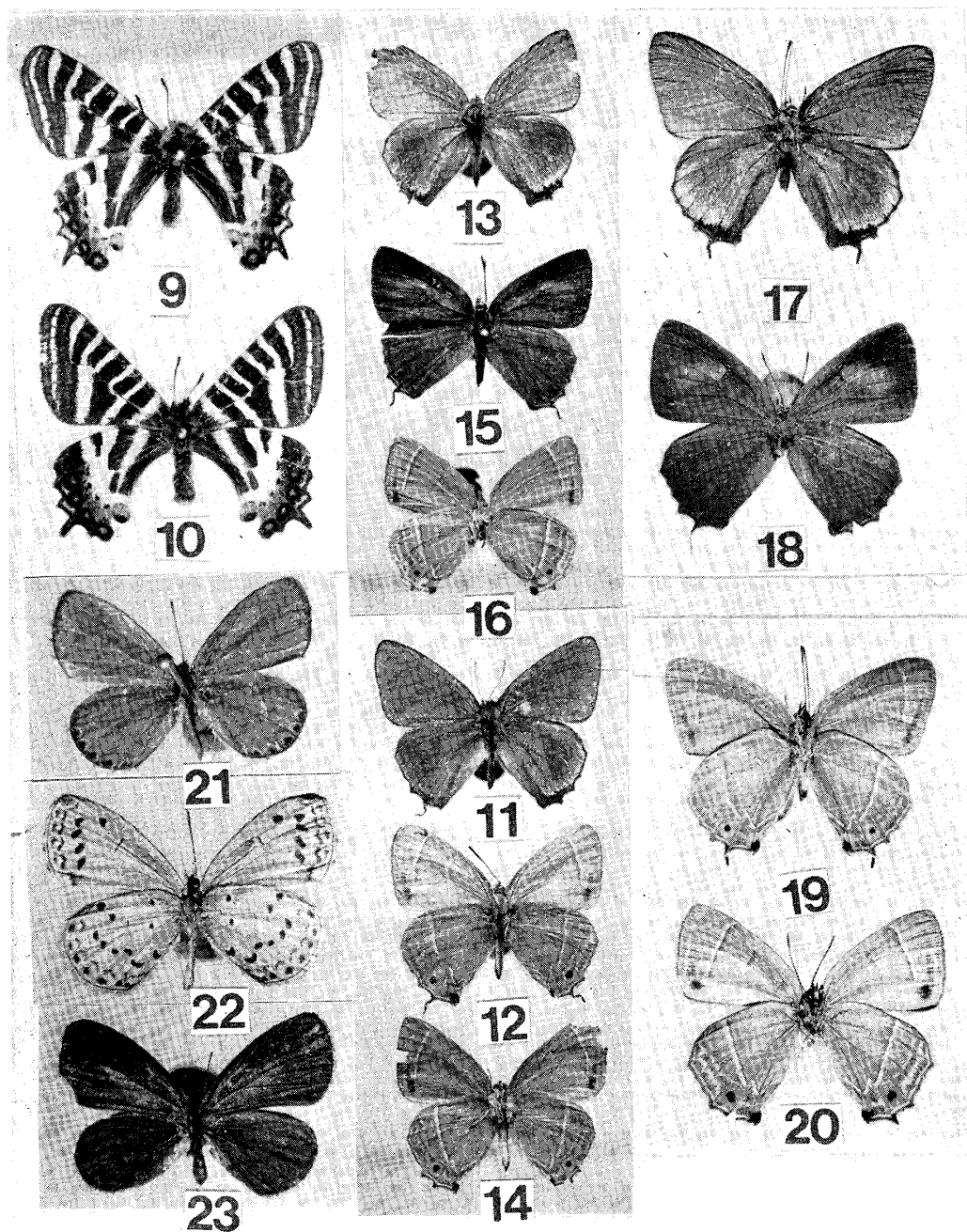
Ussuri 産本種は原記載以外ほとんど図示されていない。杉谷岩彦氏 (Zephyrus, Vol. 6, pt. 3 & 4, 1936, p. 164-167, Tab. 9, fig. 7-10) が北部朝鮮から記載された *C. admirabilis* は本種の 1 亜種で、雄翅表外縁の黒帯が幅広い点で区別される。同氏が同時に記載された *mirificus* との関係については、手許の材料が不十分なので他日に譲る。(杉谷氏は大きさ以外の点では *admirabilis* より *mirificus* の方が *filipjevi* に近いとのべている。) Ussuri における *filipjevi* の出現期を杉谷氏は 9 月上、中旬頃と記しておられるが、何によられたのであろうか。手許の標本では 7 月下旬より 8 月下旬にわたり出現するものの如くである。

Summary

In the present paper, I noted six species of butterflies from Ussuri and Korea, of which two have been described as new subspecies and one has been given a new status. In *Neptis themis* of Central Korea, all markings of both wings are not yellow, but whitish and are more reduced than in other subspecies. Particularly, the margins of the markings of the space 2, 3, 5, 6, are not clearly defined, and tend to be reduced. So I named it ssp. *kumgangsana* nov.. *Favonius orientalis schischkini* described by the late Prof. A. I. Kurentzov (1970) is not a subspecies of *orientalis*, but a good species. *F. schischkini* is different from the original *orientalis* in some important points: 1) Generally smaller than *orientalis* of Japan (Honshu). 2) Upperside of wings in male is metallic yellowish green. (that of *orientalis* from Honshu in male is dull green.) 3) Ground colour of underside in both sexes is somewhat brownish grey. 4) In male genitalia, the fore part of valve is gradually pointed towards the tip, its inner side is not hollowed out as in *orientalis*, the dentate part is longer. The true *orientalis* from Ussuri is larger in size and the metallic green of upperside in male is more deeply bluish, the apex of forewing of both sexes is more pointed. In male genitalia, the strong dilatation at the middle part of brachium and hollowing of innerside of fore part of valve is not so remarkable as in the original *orientalis*. By above-mentioned characteristics, I named the Ussuri *orientalis* the subspecies *primoriensis* nov..



- Fig. 1. *Neptis thisbe ussuriensis* Kur. ♂ upperside 29mm.
 Fig. 2. *N. tshetverikovi* Kur. ♂ Upperside 28mm.
 Fig. 3. Underside of Fig. 1.
 Fig. 4. Underside of Fig. 2.
 Fig. 5. *N. themis kumgangsana* spp. nov. ♂ Upperside 29mm. Holotype.
 Fig. 6. Underside of Fig. 5.
 Fig. 7. *N. themis themis* Leech ♂ Upperside 30mm.
 Fig. 8. Underside of Fig. 7.



- Fig. 9. *Leuhdorfia puziloi puziloi* Ersch. ♂ 25mm upperside.
 Fig. 10. *L. puziloi coreana* Mats. ♂ upperside 29mm.
 Fig. 11. *Favonius schischkini* Kur. ♂ upperside 18mm.
 Fig. 12. Underside of Fig. 11.
 Fig. 13. Do. ♂ upperside 17mm.
 Fig. 14. Underside of Fig. 13.
 Fig. 15. Do. ♀ upperside 17mm.
 Fig. 16. Do. ♀ underside. 15mm.
 Fig. 17. *F. orientalis primoriensis* ssp. nov. ♂ upperside 20mm Holotype
 Fig. 18. Do. ♀ upperside 20mm. paratype.
 Fig. 19. Underside of Fig. 17.
 Fig. 20. Underside of Fig. 18.
 Fig. 21. *Celastrina filipjevi filipjevi* Riley ♂ Upperside 12mm.
 Fig. 22. *C. filipjevi filipjevi* Riley ♂ underside 14mm.
 Fig. 23. Do. ♀ upperside 13mm.